

みやの 青少協だより

宮野地区青少年健全育成連絡協議会

〒753-0011

山口市宮野下 3054 宮野地域交流センター内

TEL 928-0250 FAX 928-0320

2025年7月15日号



さつまいもの苗挿し

地域の方の指導のもと、宮野小の子どもたちが山口県立大の学生と一緒にさつまいもの苗を挿しました。秋の収穫が楽しみです。

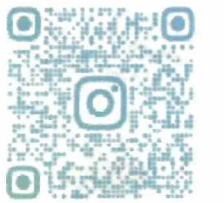
教育応援団つくしチーム
新型コロナウイルス感染症が世界中で流行し、心配と不安が蔓延したあの頃、マスクとともに人との距離をとる必要がありました。これまで普通に会話をしていた仲の良い友達とでさえ感染リスクから会う機会が減り、寂しい思いをしたものでした。
学校では毎日の消毒と換気、机を離しての黙食、集会活動はほとんどが中止やリモート開催となりました。これまでお願いしていた外部講師の依頼は行えず、地域の人々が来校されることもなくなりました。
一度途切れた交流はなかなか取り戻すことが難しく、非常事態ではなくなった今でも、「学校の敷居は高い」と言われることもあり、確かに、コロナの影響から簡略化された行事や習慣は今でも残っているものがあります。しかし、「地域とともにある学校」を目指す本校としては、地域の教育力を最大限活用させていた

健全育成を図ることが理想だと考えます。
そこで、今年度、力を入れている一つは本校教育応援団の「つくしチーム」との連携です。これまでの支援内容は、「入学当初の一年生のお世話」「理科の実験」「家庭科の裁縫」「校外学習の引率」「階段掃除や運動場の除草作業」などです。参加された皆さんは、「今まで見ることができなかった学習活動を知ることができてうれしい」、「子ども達からのお礼の言葉に涙が出そうになった」といった感想が寄せられました。
コミュニケーション・スクールとしてのこれからの学校は、児童が学ぶ場だけでなく「大人も学ぶ場」「地域の憩いの場」となることが求められています。「つくしチーム」には、どなたでも登録可能です。お気軽に学校にお越しいただき、児童の健全育成を見守っていただければ幸いです。
宮野小学校長 古谷 伸浩

【目と脳とカラダの関係】
目(脳)を動かして豊かな発想と問題解決能力を育み自然と健康なカラダを創る
目の使いすぎが脳を過労させ、睡眠の質を悪くしたり、腕の振りや股関節を硬くしたりして下肢筋力が落ち、結果的に全身的な運動機能を落とす可能性があることはご存知ですか？
人間の身体はタワーの様に真っすぐ足の上に骨盤、頭が乗っている構造をしているため、目やアゴ、肩甲骨や肋骨の細かい横移動などでもバランスをとっています。
現代社会ではスマホやタブレットの普及により、文部科学省の調べにおいても視力が1.0以下の子供達(中学校6割、小学校4割)が増大し、スポーツテストでも特にハンドボール投げは平成20年と比べると全国平均で5mも飛ばなくなっている現状があります。
海外では虫歯と目の病気を同じように予防する習慣が身についており、研究などでも目の動きとバランス

能力の関係性、脳の発達や腰痛などの関係性が示唆されています。私自身、理学療法士の資格を持ち、山口市健康推進協議会委員もさせて頂いておりますが、全国的にも目に関しての予防の意識はまだほとんどない状態です。
ここで対策方法。①目の運動をゆっくり各10回(上下左右斜め。顔を動かさない)、②首の後ろ頭の付け根をほぐす。③15分ごとに休みをとり、一時間以上モバイルの作業を続けない。など。
私自身も1歳と3歳の子供がいるので、意識せずとも健康に健やかに成長できる環境を宮野で創っていきます。その結果、宮野に住みたいという家族が増えて、地域の関わりを通して子供も大人も成長できる環境が作れば良いと考えています。
体幹特化型リハビリ整体
フンステップ
代表 岡本 鉄平

令和七年度
宮野地区青少協役員
(令和七年六月現在)
会長 総務 阿川 浩志
副会長 育成 桂 崇高
会 計 広報 中村 登
わんぱく山 総務 梅田 孝枝
育 成 部長 久保田悦弘
沖野 正次
竹内 稔雄
城市 育朗
小田村克彦
石津 明
近藤 哲久
伊藤 博実
寺山 智
原田航一郎



8月11日にシェアされた投稿
作成者: ONESTEP466

広報 部長 高畑 佳枝
石川 和朋
藤井 俊明
野上由紀子
波多野富貴恵
有井美佐子
古屋 延子
古屋 延子
総務 (以上 常任委員)
宮野自治連合会長 原田 尚
女性部副会長 伊藤 裕子
社協会長 徳万 孝治
民児協会長 久保 賢治
子連会長 三浦 俊彦
地域づくり協議会長 小林 訓二
中学校長 西村 康成
小学校長 古屋 伸浩
幼稚園長 岡村貴美子
中親育会長 矢元 謙吾
小PTA会長 松原 史好
幼PTA会長 藤井 文香
中育成部長 金子 充子
小PTA青少協担当 中田 聖大
山口駅前交番 伊勢嶋大樹
(以上 委員)



あいさつと
笑顔で
ひろげよう
宮野の輪



編集後記
今年度も皆様のご協力により、青少年健全育成連絡協議会だよりを発行することができました。特に貴重な原稿を快くお寄せくださった方々に心より感謝いたします。
宮野青少協は夜間巡視を月一度第三木曜日に行っています。子供たちの安全指導とともにゴミ拾いを巡視者全員で行っています。毎回ゴミのポイ捨てが気になるところです。
(広報部)

教子子の弁論大会原稿
からの抜粋

放課後はバレー、土日もバレーで、今考えてみればよくあんなにバレーばかりしていられたなと思います。早く引退したいと思っていたのに、今では毎日のようにボールを触りたいと思っています。それくらいバレーが私に与えた影響が大きかったんだと今になってわかります。

バレーだけではなく、挨拶や礼儀、服装など学校生活のことも、とても厳しく言われていました。

「部活は学校生活の延長だ」これは、顧問の先生がよくおっしゃっていた言葉です。学校のルールさえ守れない選手はコートの中で信用することができないという意味だと思います。

「バレーボールはチームプレーだから、自分勝手な行動をする選手は要らない」とずっと言われていたので、一年生の頃は一日をあたりにまよに学校生活を送るのにどきどきしているくらいで

した。
私がバレーボールで学んだことは『思いやる心』です。

バレーボールはカバール合うスポーツです。一人がボールに触り続けることはできません。確かにボールをつなぎ、フォロース、カバーすることでゲームが成立します。ただ味方にボールを出せばよいわけではありません。気持ちが高もったパスがいいプレーにつながると思います。思いやりがあれば、味方はそれを感じてくれます。思いやりという点がコートの中で一つの線で結ばれたとき、いいプレーにつながると思います。だからバレーボールは思いやりでできているのです。

だから私は今、支えてくれた皆に、先生方に、保護者に感謝しています。バレーボールを通して学んだ思いやりの心をもって、前に進んでいこうと思います。

宮野中学校
教諭 寺山 智

新たなコミュニティ
づくりにチャレンジ！
「中学校部活動の地域移行」を契機として

教員の働き方改革のひとつとして、部活動の地域移行の方針が国から示されたと理解していますが、無責任な大人の都合に子どもが巻き込まれたとの思いが強く、憤りさえ覚えます。

私が憂慮しているのは、日本の将来を担う子ども側の立場に立っているなど思える政策が、何一つ具体的に提案されていないこと。さらには国から移行先に名指しされた地域は、受け皿に相応しい力量を持ち合わせているのだろうかなど、現場に混乱と不信感を引き起こしていると感じています。

しかし、権限を持つ国が決定した方針に反対しても何も得るものはなく、逆に子どもたちの居場所を奪うだけの結果になりかねません。

一方、地域では町内会組織など今までのコミュニティの機能が低下しつつあり、それが年々加速度を増してきている現在、心豊かに暮

らしていくためには、それに替わる、あるいは補充する新しい存在が求められていると実感しています。

令和八年九月から実施予定の「中学校部活動の地域移行」には不安や不満もありますが、保護者をはじめ多くの関心、注目が集まるであろう状況は、新たなコミュニティを創造するまたとないチャンスになるのではと考えています。

具体的には、中学校の部活動を中心に据え、地域内のすべての世代を対象とした『地域総合型スポーツ・文化クラブ』の創設です。

例えば、青少協が行う「宮野わんぱく山教室」にクラブも加わり、中学生や未就学児や高齢者などすべての世代を対象として開催する。教えたり教えられたりする交流、ふれあいを通して、世代を超えた新たなコミュニティをつくることは夢物語なのでしょうか？

みやの地域づくり協議会
会長 小林 訓二

心に届く挨拶の力

「おはよう」

朝、幼稚園に向かう道で子供達の可愛いらしい声が響き合います。恥ずかしそうにお母さんに隠れながら挨拶をする子もいれば、遠くから元気いっぱい

「○○ちゃん、おはよう」と声をかけてくる子もいます。そこに先生方の明るい声も加わり、朝の空気がとてもあたたかく感じられます。いつの間にか、大人も子供も自然と笑顔になります。挨拶は、ほんの一言なのに場の雰囲気を変える力を持っているのだと改めて感じる瞬間です。

帰り道では、小学生が気持ちの良い挨拶をよくしてくれます。顔見知りの子もいれば、そうでない子もいます。知らない人に声をかけるといことは、大人でも勇気がいること。だからこそ、子供達が自然に挨拶をしてくれる姿を見ると、地域の中にあたたかな繋がりがあふれることを実感します。最近、時々ですが末っ子

も道で出会う方に挨拶をするようになりました。挨拶が返ってくると、とても嬉しそうに顔をしていますが、返ってこないとき少し寂しうにしています。

挨拶は、返事を期待してするものではありませんが、人との繋がりはこうした小さな言葉の積み重ねから始まるのだと思います。

そして、相手を思いやる心から発せられる言葉は、相手の心も、自分の心もあたたかくしてくれるのだと感じます。だからこそ、親である私も心を含めて挨拶をし、子供達ができるようになってくれたらと願っています。

また、挨拶の声かけが、未来へ続く優しさを育ててくれると信じています。

宮野幼稚園PTA会長

藤井 文香



散歩しながら思うこと

健康のため、できるだけ毎日、散歩するよう心がけている。ときには気の合う友達と、ときには一人で。ぼんやり周りの景色を見たり、出会った人とあいさつをしたりおしゃべりしたり。お地蔵さんにも手を合わせたり。

四季の移り変わりを感じている。景色は同じように見えても、空の雲や雨風と同じく、少しずつ変わって、日々、何かしら新しい出会いがある。

榎野川に、鯉や亀、鴨や鵜、白鷺などを見ることがある。川辺には葛やツタが生い茂っていたり、可愛いシモツケソウやウツギの花が咲いていたりする。空には、カラスや雀、ツバメ、鳩、たまに鷹が飛んでいる。六月、夕暮れに木戸にも出会った。

いろんな人とも出会う。犬と散歩している人、ジョギングしている人、夕涼みしている人、お年寄りや仲間と遊んでいる子どもたち。

人は、生まれ、成長し、活躍し、やがて老い、亡くなるものであるが、今、生きていて、いろいろな風景や人に出会うことがとても新鮮に感じ、とてもありがたいと思っている。

金子みすずは「みんなちがってみんないい」といった。その通りと思う。子どもたちはみんな違って、たくさんの人と出会って楽しんだり、言い合ったりして、日々成長し大きくなっている。

自然に恵まれた宮野で、多くの仲間と思いつ切り遊び、心豊かな人になっほしいと願っている。

子どもたちを見守りながら、自分がこれまで見聞きし、経験し学んだ事を出来るだけ多く丁寧に説明し伝えて宮野つ子を応援して行きたいと思っている。

少年相談員

藤田 房子

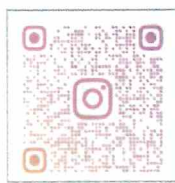
地域との絆を深め、
地域で子どもを育てる
「みやさぽ」

私は、昨年度の夏からこの「みやさぽ」のメンバーの一員になり、約十ヶ月様々な活動に参加してきました。小学校の校庭とプールで行った「水鉄砲大会」、「着衣泳」、夏の夜に学校に集まり行った「肝試し大会」、秋の味覚を収穫した「芋ほり」またその芋を使って行った「さつまいもクッキング」、みやさぽメンバーで結成したバンドグループで「徳地のクリスマスイルミネーションの点灯式」にも参加しバンド演奏も行いました。年初めには地域の方と一緒に「どんどこ焼き」も行い、そこに集まった地域のひとと焼き芋を食べたり、おしるこを食べたりと楽しい時間を共に過ごすことが出来ました。

活動の参加者は小学生を中心とした「子ども達」です。今を生きる子ども達はコロナ禍を経て、ようやく人と人との繋がりを楽しむ

ことが出来るようになりました。我々は地域の人との交流を深め、地域のひと共にこの宮野で生まれ育つ子ども達を大切に育んで行きたいと考えています。「人を大切にすること」「人から大切にされることの喜びを感じる」ときつと今の子ども達に必要な経験です。今現在、21名のメンバーで活動を行っています。これから新しく取り組んでみたい活動には、まだまだ新しい力が必要です。私たちの活動に興味のある方は是非みやさぽの活動を見に来てください。公式インスタグラムのQRコードから活動の様子も見ていただけます。私たちと一緒に「子どもが健やかに育つ宮野」を作っていきましょう！

宮野小PTA
みやさぽ・メンバー
市川 裕太



miya_sapo